

文章構成法自習ツールの構築と授業への応用

甲南大学 情報教育研究センター，鳩貝 耕一

E-mail: hatogai@konan-u.ac.jp

要旨: 本学では、初年度学生に向けた一般情報科目として「情報処理入門」を従来より設けてきた。初等中等教育における情報リテラシー教育の充実を受け、最近では一般情報科目についてもより応用面を重視したカリキュラムへと徐々に移行しつつある。そのなかの一つの例として、パソコンの使用を前提とした文章構成法に関する教育を行っている。しかしながら、文章構成法の意義や各作業内容について受講する学生に対し正確に伝えることは困難である。そこで、学生自身が文章構成法を自習することのできる WBT ツールを開発し、授業において試用した。このツールの長は、フローチャートに従い学生自らが文章構成法に基づいた作文ができるようになってきているところであり、各作業の解説のためのヘルプ画面も用意している。この結果、学生は各作業を正しくこなすことができるようになった。また、使用感や操作性についての学生へのアンケート評価の結果、概ね良好な回答を得たが、機能や操作性改善についての課題も明確となった。

1 はじめに

本学では一般情報科目として「情報処理入門」を従来より設け、ワードプロセッサ（ワープロ）や表計算ソフトウェアの使用法をはじめ、インターネットの活用法など学生の情報活用能力の向上を目指した講義／実習を行ってきた。著者の場合、キーボード操作等の初歩的な演習から始まり、最後にワープロを用いてレポート（題材は自由だが論文形式）を作成させそれを評価してきた。しかしながら、昨今のインターネットの発達により、ホームページ上にある他人の解説をそのままレポートにコピーして推敲もせずに提出するだけの学生が増えてきたことも事実である。

一方では、高等学校において「情報」科目を受けた生徒が数年後には大学初年度学生として入学してくることを考えると、彼らに対しパソコンの扱いを一から懇切丁寧に指導する必要もこれから徐々になくなっていくのではないかと考えられる。従って、大学の情報リテラシー教育の内容についてもより高度な情報活用能力の育成にシフトしていく必要がある。

学部によらず、授業やゼミなどにおいて学生がレポートや論文を書いて提出する機会は多いし、彼ら大学生が社会に出てからも報告書などの文章を頻繁に作成せねばならないであろう。よって、情報リテラシーの次にくる教育内容の一つとして、明快で論点の明確なレポートや論文を執筆する能力の育成が挙げられる。そのためには、本来ならば日本語文章にかかわる能力全般 [1] について教育していく必要がある。

しかしながら、「情報処理入門」の限られた時間の中で日本語能力全般について充実した教育を行うことは難しい。よって、読者にとって理解しやすいレポートや論文作成を目指し、文章構成法に限定した実習を一部で行ってきた。残念ながら、その筋書きどおりに作業を行ってくれる学生の割合は低かった。このことは、

初等中等教育で実務的な文章の書き方についていかに教育していないかということの表れでもある。そこで、学生が文章構成法について自習するツールとして、“サタケさんの「文章構成法」自習ツール”を開発した。

以下では、まず本ツールを構築した目的と意義について説明し、次に本ツールで取り上げた文章構成法での作業内容とシステム構成について簡潔に説明する。最後に授業でこのツールを使用することのメリットと本ツールの改善点などについてまとめる。

2 本ツール構築の目的と意義

日本語の文章能力を育成するオンライン教材は既にいくつか存在する。日本語文章能力検定協会では、双方向対話式リアルタイム講義「文章作成 Web ライブ講義」を開始しており、立命館大学が入学前学習として導入したり、NEC が自己開発コースで利用したりしている [2]。株式会社イー・コミュニケーションズにおいても「challenge 文検」という名前の e-Learning コースが用意されている [3]。

日本語文章能力検定協会の解説 [1] によると、日本語の文章能力には文章内容把握能力、文章構成能力、文章表現能力、および文章作成能力の四つが必要とされている。本来ならば、これらについてうまくバランスのとれた教育を行うべきであろうが、半期の情報リテラシー教育の中で全体を教えることは時間数と教員の能力上難しい。

そこで、文章構成法について自ら学ぶことのできる自習ツールを構築し、それを学生自身が使用する中で、文章構成能力だけでなく文章表現能力や文章作成能力についても可能な範囲で育成することを考えた。すなわち、上記の e-Learning ソフトウェアとは一線を画し、上から「教える」のではなく学生が文章を構成する際に作業を「アシスト」するツールとして構築することにした。

文章構成法や文章作成に関する解説書は数多いが、その多くは文章構成法あるいはより良い文章の作成に関する手法やノウハウについての解説である。その中で、「電子メディア時代の文章法」(学燈社)の第二章「パソコンで展開する文章のテクノロジー」[4]には、最終的な推敲段階を含め文章構成の各ステップで何をすべきなのかが単純明快に解説されている。さらに、各作業ステップ間の推移がフローチャートで示されていることにより、文章構成法に不慣れな学生でも次に何をすべきなのかが明確に分かるようになっている。

そこで、この「パソコンで展開する文章のテクノロジー」を参考にしながら、情報リテラシーの講義/実習の中で使用可能な自習ツールを構築した。

3 ツールでの作業概要とシステム構成

このツールにおける文章作成の流れを図 1 に示す。この図から分かるように、各ステップにおいて今何をすべきか、あるいは次に何をしなければならないのかが明確に示されている。

「題材」、「主題」、「材料」の三つの要素を決める際に考慮しなければならないのが、主題について考えるのを先にするのか、材料集めを先にするのかという点である。学生の書いた文章を見ていると、往々にして集

めた材料，すなわち他人の意見に流されてしまい自分の主張が示されないことが多い．そこで，このツールでは材料集めの前に主題を考えるステップを設けることにした．ただし，書こうとする内容によってはノーアイデアの場合もあるので，材料集めを先にすることも可能な構成となっている．

アウトラインが完成したら，これを文章に展開しワープロに持っていく．このツールの機能としてはここまでである．アウトラインから展開した文章は，もともと箇条書きであった単純な文の集まりなので，読める文章に持っていくには修飾語や接続詞などを補っていく必要がある．

最後の重要なステップである“文章のチェック”すなわち推敲段階は，機能が充実していることもあり，ワープロ上で作業を行う．推敲が終われば，文章作成の作業は完了する．

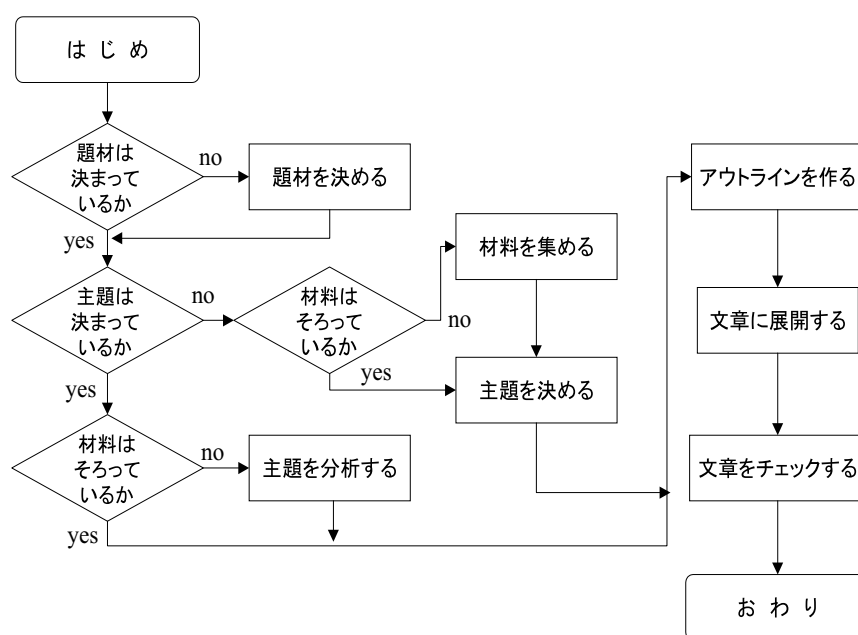


図 1: 文章構成法のフローチャート

このツールは，クライアントパソコンの Web ブラウザからサーバコンピュータの CGI を呼び出すことによって起動するようになっている．PHP (PHP: Hypertext Processor) 言語による開発なので，PHP が動く環境であればコンピュータのアーキテクチャに依存せずインストールや移植が可能なものと考えられる．

キーボードやマウスを使用して文章構成や修正などの指示を与えると，サーバコンピュータ上の CGI が動作し，必要なデータ処理を行ったあとユーザ単位に文章構成データを保存する．その後，処理結果をクライアント側に応答として返してくる．クライアント側のブラウザは，その処理結果を画面上に表示する．

4 まとめ

文章構成法について学生が自習に使用できるよう，あるいは授業中の解説や実習で使用するために“サタケさんの「文章構成法」自習ツール”を開発した．ツールは，参考文献 [4] の中のフローチャートのアルゴリ

ズムをもとに Web サーバ上の CGI としてインプリメントした。開発の際には、参考文献 [4] の著者である佐竹秀雄先生のご指導やご助言もふまえて内容を構成した。

ツールの開発は 2003 年夏より始まったが同年度内にはツールが完成したので、本年度より「情報処理入門」のいくつかの実習授業に導入して学生が使用した。以前は、文章構成法の意義や内容についての解説を正しく理解し、指示したとおりに作業することのできる学生の割合が低かったが、このツールを使用することによって図 1 の各作業ステップが持つ意味を確実に伝え、型どおりの作業ができるようになった。

また、学生によっては（面倒くさいためか）途中のステップを経ずにいきなり文章を書いて提出する者もいるが、できあがった文章をあえて材料へと分解することによって、学生をアウトライン構成のステップへと強制的に戻すことが可能となった。あるいは、学生が作成した文章の表現等について議論しながら指導する際に、各段落や各文章で何が言いたいのかを学生のほうから教員に対し比較的容易に説明することができるようになったこともこのツールを使用することによるメリットの一つである。

使用感や操作上の問題点を拾うためアンケート評価を行ったが、概ね良好な回答を得た。一方では、ヘルプ画面の説明や一部の操作に不便を感じる学生もあり、ヘルプ画面や文例の充実、使い勝手の改善、長い文章の構成機能などが今後の改善点として挙げられる。これら機能や操作面の改善をふまえ、今後は大学の専門教育に向けた基礎学力の強化やリメディアル教育への応用をはかっていきたい。

謝辞

本ツールの開発にあたっては、武庫川女子大学言語文化研究所長で文学部教授の佐竹秀雄先生に文章構成法やツールのあり方に関するご指導やご助言等を多数いただきました。ここに感謝の意を表します。

本ツールは、文部科学省平成 14 年度「サイバーキャンパス整備事業」の一環として開発されました。開発は、株式会社ナスピアの協力により行われました。

参考文献

- [1] 日本語文章能力検定協会「文検」解説ページ,
http://www.kentei.co.jp/bunken/bun_toha/index.html.
- [2] 日本語文章能力検定協会「文章作成 Web ライブ講義」解説ページ,
<http://www.kentei.co.jp/bunken/web/>.
- [3] イー・コミュニケーションズホームページ,
<http://www.challenge-wbt.jp/c2/pr/bunken/index.html>.
- [4] 佐竹秀雄, “パソコンで展開する文章のテクノロジー”, 電子メディア時代の文章法, 學燈社, 2000 年 5 月.